



# 学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和8年9月30日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



## 小学校「算数」のよさ その2

校長 山崎 隆

前回の続きです。

【問題】 たろうさんが1000円持って買い物に行きました。はじめにパン屋で250円のパンを買い、次に果物屋で120円のリンゴを買いました。最後に文房具屋で80円の消しゴムを買いました。おつりはいくらでしょう。

3年生のDさんは実際に自分が買い物をしておつりをもらう様子をそのまま式に表して、次のように考えました。

$$1000-250=750 \quad 150-120=30 \quad 100-80=20 \quad 500+30+20=550$$

答え 550円

学級全体の話合いでは、Dさんの考えを聞いた子供たちから次のような発言がありました。

「 $1000-250=750$ 」の式で、もしパン屋さんがおつりを50円じゃなくて10円玉5枚でくれたとしたら、果物屋さんでは100円玉と10円玉2枚で120円ちょうど払うから、「 $150-120=30$ 」の式がなくなっちゃう。(Eさん)

Dさんの式だと、50円のおつりを50円玉でくれるか10円玉でくれるか、お店の人のおつりのくれ方で式が変わっちゃう。(Fさん)

そして話合いは次なる方向へ動き出しました。

もし、パン屋さんに行く道が工事で通れなくて、先に文房具屋に行ったとしたら式が変わっちゃう。(Gさん)

もしお店に行く順番が変わっても、Aさんの式で「 $250+120+80$ 」の順番を変えても、Bさんの式で「 $1000-250-120-80$ 」の引く順番を変えても答えは同じだから、AさんやBさんの式はいつでもどこでも式の意味が変わらないし、だれにでも意味が伝わる。(Hさん)

|       |                       |                |
|-------|-----------------------|----------------|
| Aさんの式 | $250+120+80=450$      | $1000-450=550$ |
| Bさんの式 | $1000-250-120-80=550$ |                |

子供たちは、AさんやBさんの式の下線部分の順番を入れ替えても答えは変わらないという計算のきまりを使って「いつでも・どこでも・だれにでも」という「よさ」に気付きました。この特質は、いつでも・どこでも・だれにでも同じように使える約束事や普遍性、社会的な合意で、「協約性」という算数ならではの「よさ」でもあります。

Dさんが日々の生活の中で感じたことや考えたことから主体的に導き出した式をきっかけに、子供たちは以前学習した計算のきまりを使いながらみんなが主体的に考え、子供たち同士あるいは自分自身と対話しながら表現することで学習が深まっていきました。これは、小学校の算数における学習の進め方の特徴の一つで、まさに学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の実現といえるでしょう。

今回の学習指導要領改訂作業において、文部科学省は「算数・数学」の名称を議論することより学習そのものの中身を重視したのです。